

## 【ベトナム】メコン河委員会第2回首脳会議でホーチミン市宣言採択

海外立法情報課 藤倉 哲郎

\* メコン河本流でのダム建設を巡り関係国が対立している中、メコン河委員会の首脳会議が開催され、本流ダム建設に反対するベトナムの意向を強く反映したホーチミン市宣言が採択された。

### 1 メコン河委員会第2回首脳会議の開催

2014年4月5日、メコン河下流域での資源の利用と開発を調停するメコン河委員会(Mekong River Commission、以下MRC)の第2回首脳会議が、ベトナムのホーチミン市で開催された。MRCを構成するベトナム、カンボジア、ラオス、タイの4か国の首脳(注1)のほか、対話国である中国及びミャンマーの閣僚並びに開発パートナー及びオブザーバーの代表が参加した。2010年の第1回首脳会議で採択されたホアヒン宣言以降の取組の成果、メコン河流域が抱える今日の自然環境と社会問題、及び今後の6つの優先課題を盛り込んだ、ホーチミン市宣言(注2)が採択された。

### 2 本流ダム建設を巡る対立で問われている「事前協議」の実効性

MRCは、1995年4月に、カンボジア、ラオス、タイ、ベトナムの間で締結された「メコン河流域の持続可能な開発のための協力に関する協定」(以下、協定)(注3)に基づく政府間機構である。協定の目的は、締約国の経済・社会発展にとって重要なメコン河流域(協定締約4か国を流れる下流域が対象)及び関連の天然資源と自然環境を、持続可能な方法で開発し管理するためのプロジェクトやプログラムを実施し、係争や問題を友好的に解決するための協力を促進することである。

協定では、メコン河本流における流域変更は、原則として締約国間の事前協議が必要とされている(協定第5条)。しかし、2000年代後半に、ラオスが、電力輸出を目的とした複数の水力発電用の大型ダムを本流に建設する計画(注4)を明らかにして以降、本流ダムを巡って協定締約国間で対立が起きている。このうち、メコン河下流域で最初の本流ダムとなるサイヤブリ・ダム計画は、ラオスが2010年にMRCに計画を提出し、事前協議が運用される初めてのケースとなった。このダムの下流に位置し、本流ダムによる環境への影響を強く懸念するカンボジアとベトナムが計画の延期を要求した。ラオスは2011年5月に計画の延期を表明し、同年12月のMRCの会合では追加調査の必要性で4か国が合意したが、2012年11月にラオスがダム建設を強行して現在に至っている。さらにラオスは、事前協議の対象になり得るドンサホン・ダム計画について、2013年10月にMRCへ通知するに留めており、事前協議の実効性が問われている。

こうした背景で開催されたメコン河委員会第2回首脳会議では、ベトナム首相やカンボジア政府高官が、本流ダム計画を強行するラオスをけん制する発言を行った(注5)。

さらに首脳会議で採択されたホーチミン市宣言では、今後の優先課題として、本流ダムの環境への影響に関する研究や、事前協議の運用上の改善が盛り込まれるなど、本流ダムに強く反対している議長国ベトナムの意向が強く反映される形となった。

### 3 ホーチミン市宣言の内容

ホーチミン市宣言は、「気候変動の中でのメコン河流域のための水・エネルギー・食料安全保障」と題している。宣言は冒頭、メコン河流域開発による地域の社会経済発展に言及しつつ、気候変動による影響への全面的かつ効果的な対処が差し迫った課題であるとしている。また第1回首脳会議以降、2011年採択の流域開発戦略に沿った行動計画の策定と、メコン河流域における水資源開発プロジェクトに関する健全な意思決定のための事前協議が幅広く実施されたこと等を成果として挙げている。そして、協力強化で締約各国が一致したとした上で、以下の6つの優先課題を挙げている。

①ベトナム主導のメコンデルタ研究との連携を伴う、本流水力発電ダム計画の影響も含めた、メコン河の持続的管理及び開発に関する研究の促進、②流域開発戦略の見直し、更新及び実行、2011年~2015年MRC戦略的計画の実施、2016年~2020年MRC戦略的計画の準備と実施、③気候変動が状況を悪化させる可能性があるという認識の下での、流域でのダム開発、航行及びその他の活動のみならず、集約的な農業、漁業及び水利によって引き起こされる、河川環境、食料安全保障、生活及び水質に対するリスクの回避、削減及び軽減、④協定の目的を効果的に実現するための手続運用方法の継続的な改善、⑤MRCの外部の協力者との協力拡大の検討、⑥洪水、干ばつ及び海面上昇による災害リスクを軽減する努力の促進並びにメコン河流域の水質監視である。

宣言は、次回首脳会議を2018年にカンボジアで開催するとして締めくくられている。

注(インターネット情報は2014年7月15日現在である。)

- (1) 議長国のベトナムからグエン・タン・ズン首相、カンボジアからフン・セン首相、ラオスからトンシン・タンマヴォン首相が出席し、タイからは首相特使として外務次官が出席した。
- (2) 宣言全文<<http://en.vietnamplus.vn/Home/Declaration-of-2nd-summit-of-Mekong-River-Commission/20144/48457.vnplus>>を参照。
- (3) 協定の英語原文及び和文仮訳は、国際協力事業団国際協力総合研修所『メコン川委員会の現状と展望に関する研究報告書』1996.5, 付録 pp.1-25<[http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC\\_and\\_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/pdf/96\\_15.pdf](http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/pdf/96_15.pdf)>を参照。
- (4) メコン河でのダム開発については、メコン・ウォッチ<<http://www.mekongwatch.org/index.html>>及びInternational Rivers <<http://www.internationalrivers.org/>>を参照。
- (5) 首脳会議でのズン・ベトナム首相演説全文”Phát biểu của Thủ tướng Nguyễn Tấn Dũng tại Hội nghị MRC” 2014年4月5日付ベトナム通信電子版<<http://www.vietnamplus.vn/phat-bieu-cua-thu-tuong-nguyen-tan-dung-tai-hoi-nghi-mrc/252814.vnp>>、カンボジア政府高官発言”Cambodia to call for moratorium on Laos’ dam during MRC summit” 2014年4月4日付新華社通信電子版<[http://news.xinhuanet.com/english/world/2014-04/04/c\\_133238376.htm](http://news.xinhuanet.com/english/world/2014-04/04/c_133238376.htm)>を参照。